

防災



小学校高学年以上

社会

総合

NHKスペシャル 東日本大震災

73分

巨大津波“いのち”をどう守るのか

(2011年放送)

この番組の良さ



それぞれの授業のねらいで

この番組は、今回の東日本大震災に関する数多くの映像を使っています。授業のねらいにそって、それらの映像を使った授業に活用できます。

巨大津波のシステム

東日本大震災の際に発生した「巨大津波」。多くの命や財産を奪っていった「津波」は、どのようにして起こったのか？

その時、三陸沖の海底ではどんなことが起こっていたのか。そのメカニズムを番組で明らかにしていきます。

その時、人は何を考えていたのか？

地震発生から津波到達までの間、人々は何を考え、どんな行動をとったのか？誰も経験したことない大地震・津波が押し寄せる間際で、人々がとった行動の結果が生死を分けることになりました。このような災害発生時に、何を考えどうやって行動すればよいのか、子どもたちが考えていく力をつけるきっかけになります。

番組活用のポイント

いろいろな授業に使える

2011年3月11日14時46分、宮城県牡鹿半島沖合130キロメートルの海底を震源として発生した東日本大震災は、日本の観測史上最大のマグニチュード9.0を記録しました。

未曾有の大災害となった理由のひとつは、地震の直後に襲った大津波による被害が大きいことが挙げられます。

この番組では、まず、その津波の発生源、メカニズムをシミュレーションや実際の映像を使って明らかにします。つぎに、被災された方たちの実際の体験をインタビューと当時の映像で再現します。ここでは、津波が身近にせまる緊迫感と、その時にどういう行動をとったために助かったのかが明らかにされていきます。最後は、これからの災害発生に備える、研究者たちの活動を紹介します。校種や学年に関わらず、授業のねらいにそって様々な授業で活用できます。

防災教育に

番組では、三陸海岸と宮城平野での津波のメカニズムと被害の大きさのちがいを検証します。津波に対する人々の避難意識の差、情報が錯そうする中で混乱した避難所の様子などもインタビューと映像で紹介されます。

今回の津波は、三陸沖で7メートルもの高さに達していたことが、釜石市のGPS波浪計で観測されています。これまで考えられていた津波発生のメカニズムをもとに津波の波形をコンピュータシミュレーションで再現しようとしてもできませんでした。それほど人間の予想を遙かに超える規模の津波であったことがわかります。その危険性は東北地方だけでなく、全国の海岸に及んでいることを知っておかねばなりません。

(加藤悦雄)